

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 地域とともに川と人とのつながりの再生へ～宮崎市街部の河川活動を事例に～		
水系/河川名 : 大淀川水系/大淀川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面 2230	整備計画流量 : 9100m ³ /s	セグメント : 2-2
事業 : その他	事業開始年度 平成27年度	
目標設定 : なし	段階 : D(実施・施工時)	
課題・目的(主な) : 貴重種、特定動植物の保全、ワンド・たまり、池沼の保全・再生・創出		
工法(主な) : 移植、植樹、その他		
配慮事項(主な) : その他		

背景・課題、目標設定

＜背景・課題＞

・良好な川づくりのため水辺で地域主体となった様々な取り組みを行っている。
 ・その取り組みの一つとして、河川協力団体であるNPO法人大淀川流域ネットワークを中心に大淀川天満橋付近(宮崎市)において、重要種(タコノアシ)の保全活動を実施している。

・ただ、保全活動のフィールドは、足場が悪く、作業用の足場や仮橋が必要な状況である。
 ・一方、道路事業において、国道10号及び220号では、安全管理上の課題を抱えていた宮崎のシンボル・ワシントニアパームの植替えを平成29年から実施しており、植替えによって発生した伐採材の活用を検討しているが活用策が見出せていない。

＜目標設定＞

- ・大淀川の河川環境保全(重要種である宮崎県内で最大級のタコノアシ群落の保全)
- ・重要種のタコノアシの保全活動イベント等を通じ、地域住民に河川環境へ関心を持ってもらう
- ・賑わい創出のための川の利活用(散策、親水利用等)の推進
- ・道路事業で発生した伐採材(ワシントニアパーム)を有効活用

地域主体となった河川活動



宮崎県内最大級のタコノアシ群落



取り組み内容・対策例(1/2)

＜制約条件＞

- ・ワシントニアパームの性質上椅子や棚などに加工することが難しく再利用先が見つかりづらい。
- ・タコノアシ保全活動のエリアは小川が流れており、足場はぬかるんでいる。

＜取組内容＞

- ・道路事業で発生した伐採材(タコノアシ)をタコノアシ保全活動エリアの滞筋を渡る通路として活用した。
- ・これにより小川を渡って競争種の伐採を容易に行うことができた。
- ・多くのボランティアの作業に役立った。



伐採材を滞筋を渡る通路として活用

取り組み内容・対策例 (2/2)

<配慮した点>

- ・多様な自然環境の保全
- ・地域のニーズとマッチした川の利活用
- ・宮崎のシンボル「ワシントンアパーム」を地元で還元すること



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<セールスポイント>

- ・道路事業で発生した伐採材(ワシントンアパーム)を河川活動で活かし、地域に還元
- ・河川活動と道路事業がうまく連携した取り組みは全国でもおそらく先駆けとなる好事例
- ・大淀川下流地区における更なる良好な環境の保全
- ・保全活動のイベント開催では子どもから大人まで多くの方が参加し、水辺での活動が活発化することに寄与

<今後の活用策>

- ・タコノアシ保全活動やタコノアシ生育地散策のために通路を設置し、観察を容易にしたり競争種の繁殖抑制につなげたりしていく
- ・水質浄化剤として使用(試験段階中)



有効活用



備考